



今年度のESDの重点目標

- ・ユネスコスクール及びESDの考え方を理解した上で、従来行っていた活動をESDの観点で捉え直し、ESDの実践を行う。
- ・環境への思いやり、人への思いやり、そして社会への思いやりを育む。

【令和3年度 ESD実践報告】

（1年）「アサガオをそだてよう」（生活科、図画工作科）

アサガオを種から育てる体験を行った。植物の育つ様子を見ながら、水をあげたり、支柱を立てたりと、成長に合わせて継続的な世話をすることができた。無事に美しい花を咲かせた後、花や実で遊ぶ活動を行った。また、アサガオのつるに学校の周辺で拾ったドングリや松ぼっくりなどで飾りを付けてクリスマスリースを作った。一人一鉢を育てることで、植物の生命力に触れ、命を育む体験となった。また、身近な自然が自分たちの生活を豊かにすることにも気付くことができた。



（2年）「つくる 楽しさ はっけん」（生活科）

おもちゃ作りの学習で、各家庭で捨ててしまう空き箱やトイレトーパーの芯、ペットボトルのキャップなどを回収し、それらを使って動くおもちゃを作った。学習の最後には、おもちゃランドに1年生を招待し、身近にあるものでおもちゃを作って遊ぶ楽しさを実感できた。



（3年）「はたらく人とわたしたちの暮らし」（1）工場のしごと（社会科）

牛乳工場の工程を調べることにより、工場では大切な牛乳を通じて地域の人々と密接な関わりをもとうとしていることをより理解することができた。そして、牛乳を大切にしたい気持ちがSDGsの何番に結び付くのかを考え、SDGsとの結びつきを多面的かつ多角的に理解する活動を行った。



（4年）「限りある資源 ～SDGsの目標で自分たちにできること～」（総合的な学習の時間）

社会科「水はどこから」の発展学習として取り組んだ。限りある資源について7グループ（火力発電、水力発電、原子力発電、天然ガス、再生可能エネルギーなど）に分けて調べ活動を行い、限りある資源をどのように活用したらよいか問題意識をもつことができた。



（5年）「防ごう！食品ロス！」（総合的な学習の時間）

総合的な学習の時間の中で、米作りを行った。食べ物を作る大変さを知った上で、東京オリンピックでも問題視されていた食品ロスにおける世界の現状を知り、改善策を考えてタブレットを使って発表を行った。「給食を残さない」という小さなことでも積み重ねることで少しずつ食品ロスを防ぐことができることを知り、できることからはじめようという意識を高めることができた。



（6年）「パネルディスカッションをしよう」（国語）

「20年後の未来を考えよう」（総合的な学習の時間）

20年後の未来について考える中で、憧れの未来を実現させるためには地球温暖化の問題を解決していくことが重要であることを知る。地球温暖化についての解決策、企業の取り組みを調べ、SDGsの17の目標と関連付けながらパネルにまとめ、ディスカッションを行った。学習の最後には、20年後の未来の新製品をSDGsの視点を取り入れながら考えており、SDGsと実生活のつながりを実感していた。

